

令和8年3月31日現在

1 施設名称

特別養護老人ホーム 簸の上園
(開設 昭和48年8月1日)

2 所在地

雲南市大東町中湯石 88

3 事業計画の達成状況

(1) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり

ア 福祉・介護業界のイメージアップを図り、多様な働き方を推進する。

実施施策	広報活動の活性化による人材確保
取組の方向性①	ホームページを情報発信の中心として位置づけ、内容を充実させる。また、本部の法人 PR チームとも連携し人材確保に効果的な広報活動を進める。(変更)
行動計画	・ 人材確保戦略チームを中心に、SNS を活用した人材確保に係る情報発信を行う。また、準職員・非常勤職員の求人用リーフレットを一新し、人材確保につなげる。(変更)
評価	・ ホームページは、毎月 5～6 件の情報発信を行った。内容は生活の様子以外に、求職者や養成機関の受講生が興味や魅力を感じる内容を意識した。 ・ 施設見学者の多くはホームページを観ており、求職者の閲覧も一定数あるため、取組や魅力の発信につながっている。 ・ 前年度の人材確保戦略チームでの意見をもとに、リーフレットを刷新した。
取組の方向性②	ハローワーク等へ積極的に働きかけ、単独または合同での就職説明会の開催や、介護人材養成講座及び説明会、実習の受け入れを積極的に行う。また、新たな養成機関との関係を構築し人材確保に繋げる。(変更)
行動計画	・ 介護人材養成機関との意見交換をもとに、実習の受け入れが人材確保につながるよう、より魅力ある実習プログラムを作成する。(変更)
評価	・ ハローワークや就職説明会などに積極的に参加し、求職者から雇用の条件や形態について意見を聴取し、リーフレット作成の参考にした。 ・ お仕事相談会等ではリクルート動画や介護の魅力伝える動画「簸の上園のあゆみ」を上映するなど他事業所との差別化を工夫した。 ・ グローバルの初任者研修実習 4 名、障害者職業支援センターの職場

	<p>実習1名を受け入れた。今年度は実習からの採用はなかったが、介護人材養成機関との関係性を継続し、引き続き実習受入の要請に応じていく。</p>
--	--

実 施 策	施設の魅力発信
取組の方向性 ①	将来の介護人材確保に向け、施設実習や職場体験等の積極的な受け入れや、中・高等学校の福祉委員会等の活動の中で、福祉の魅力を知らせてもらえるよう連携していく。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「夢」発見ウィークや「夢」発見ボランティア、中高生を対象とした「夏休み介護体験」の受け入れを継続する。(継続) ・ 海潮小学校交流活動や大東中学校福祉委員会の活動に継続して参画するとともに、直接交流の機会を増やし福祉への関心を高める。(継続)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雲南市内中学3年生を対象とした職場体験「夢」発見ウィークでは3名を、また、島根県の「夏休み介護の職場体験」では5名の高校生を受け入れ、福祉教育と介護の魅力発信を行った。 ・ 交流と福祉教育の一端を担う目的で毎年開催してきた海潮小学校の3・4年生との交流会については、生徒数の減少のため今年度は開催できなかった。 ・ 大東中学校福祉委員との活動は今年で3年目となった。簸の上園の紹介を行って福祉への関心を高めてもらい、敬老会に向けて箸袋等を一緒に制作した。今年度は活動が全校に拡がり、カレンダー作成や、PTA総会での講演につながり、交流の機会が増えた。職員の経験値を高める場にもなり、人材育成につながっている。
取組の方向性 ②	圏域の高等学校の「探究学習」に継続して参画し、介護の魅力発信につなげる。(変更)
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大東高等学校の探究学習「ゲストトーク」や雲南市介護人材確保事業の一環である大東高等学校での「介護の授業」に継続して参画する。また、福祉に関連する体験型企画を提案し、積極的に関わりをもつ。
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大東高等学校の探究学習「ゲストトーク」や雲南市介護人材確保事業の一環である大東高等学校での「介護の授業」に継続して参画し、職業選択に向けた情報や介護の魅力を発信した。また、松江商業高校の企業説明会に継続して職員を派遣した。
取組の方向性 ③	施設を身近に感じてもらうため、行事の際などには近隣圏域の学生等にボランティアを募り、関わりをもつ機会をつくる。

行 動 計 画	・ 順次再開している園内行事の際に、新たに地元の「うしお児童クラブ」へ働きかけ、交流機会を探る。(新規)
評 価	・ うしお児童クラブとの交流機会を探ったが、学童クラブであり時間の制約や活動内容等調整が整わず見送った。

イ OJT 制度を中核に職員一人ひとりを育成し、チームケアを推進する。

実 施 策	リーダーシップ力の向上
取組の方向性①	・ 再編した委員会・部会体制を確立させ、各委員会等が連動して活動を展開できるよう進める。
行 動 計 画	・ グループリーダーは、個別ケアの実践について委員会、専門ケアチームと連動させて、チーフが実践シートを活用して主体的に活動を展開できるよう OJT を行う。(変更)
評 価	・ グループリーダーは、事業計画に沿って年間行動計画を立て、事業計画の重要性や係長級職員の役割を再認識することができ主体的行動に繋がってきた。また、チームワークやチーム力にも反映しており、リーダーシップ力の向上を図ることができた。 ・ 実践シートについては、グループリーダーフォローを受けながらチーフが主体となって作成し、チームで利用者支援に反映させた。
取組の方向性②	グループリーダーによるチーフの OJT を強化し、双方のリーダーシップ力やコミュニケーション力、企画力を高めていく。(変更)
行 動 計 画	・ グループリーダーは、チーフと共に事業計画をもとに行動の見える化を図り、チーフが主体的に業務改善や利用者支援の充実を図れるよう OJT を強化する。(変更)
評 価	・ チーフを中心に業務改善に関わる各里の「課題整理シート」を作成し、優先度を整理することで業務改善や支援の充実を図った。毎月のチーフ会では、その内容を共有することで、グループリーダーの伴走を受けながら主体的に実践できるようになってきた。
取組の方向性③	中堅職員は、専門職の役割を理解した上で、研修や実践を通して、多職種によるチームアプローチやチーム力向上のためのスキルを高める。(変更)
行 動 計 画	・ 主任介護員は園内研修、感染予防、職員交流企画など、直接介護以外の場面での役割を持ち、係長級職員のサポートのもと、企画力、調整力、実行力を養い、職階に応じた中堅職員としての質を高め里運営に活かす。(変更)

評 価	<ul style="list-style-type: none"> 主任介護員が「看取り介護」「事故防止」などの園内研修の講師を担い、研修に向けた企画提案、研修内容についての学習の機会となりスキルアップにつながった。
-----	--

実 施 策	職場内 OJT による人材育成と定着
取組の方向性 ①	グループリーダーを中心に、互いが成長しあえるよう里での OJT 体制を整え、継続的な育成と不安なく働ける職場づくりをする。(変更)
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> グループリーダーは、前期面談前に各職員とショートミーティングを行い、事業計画に沿って個人目標を具現化できるように方向づけし、里内で共有する。(継続) グループリーダーは、前年度採用者の OJT の振り返りをもとに、準職員・非常勤職員の育成マニュアルを完成させる。(継続)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> 事前に管理職とグループリーダーで求める姿の目線合わせを行い、共有したのちにショートミーティングを行うことで、より実効性の高い目標に導くことができた。里の実践目標に向けて、職員一人ひとりが目標を持ち自主的に行動できるようリーダーとチーフが中心となり方向づけた。 準職員、非常勤職員の育成マニュアルを完成させ活用している。
取組の方向性 ②	非常勤、準職員は、チームの一員としての役割が発揮できるよう、年間目標を立て実践するとともに、積極的に外部研修に派遣し、スキルアップにつなげる。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> グループリーダーは準職員・非常勤職員が実践シートに沿って年間目標を立てて、役割意識を持って実践できるよう面談(個別・グループ)を行う。また、行動の承認や成果の確認を行うことで理念と結びつけ、やりがいにつなげる。(継続)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> 準職員・非常勤職員はグループリーダーと共に目標を決め、年3回面談を実施し行動承認を行いながら進捗を確認した。里間での差はあるものの、実践と理念の結びつきや行動の承認、成果を共に喜ぶ体制が整い、チームへの帰属意識ややりがいにつながってきている。

ウ 職場風土を改善し、職員の定着率とモチベーションを高める。

実 施 策	互いが高めあえる人づくり
取組の方向性 ①	介護分野以外にも興味のある研修・講座への積極的参加を勧め、広い視野を養い介護に反映させ、モチベーションを高める。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 係長、2級職員を対象に、「職場風土の醸成に関する研修」を年間通

		<p>して段階的に開催し、職場風土づくりへの参画意識を高める。(継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広い視野を養い顧客志向を養う機会が持てるよう、雲南市内の福祉事業所等への交流体験を検討する。(新規)
評	価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部講師を招き、正規職員を対象に職場風土の醸成に係る研修を開催した。グループワークを通して簸の上園らしさを共有し、自分たちの職場を見つめなおすことができた。職場風土は一人一人の日々の行いの積み重ねであることを学び、挨拶、5S活動などの日常の土台となる行動の重要性を再認識した。 ・ 雲南市内 6 特養の介護職員交流会にグループリーダーと介護員の 2 名が参加し、日頃の想いや悩みの共有、自施設の強みや課題解決へのヒントを得た。島根県社協からの参加もあり、介護現場の現状や職員の生の声を共有した。
取組の方向性②		園や里全体で共通性をもった活動や取組を行い、連帯感ややりがい、達成感を感じながらモチベーションを高める。
	行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各部署内の作業環境や支援環境に視点を置いた定期的な美化活動を行い、互いの協力姿勢や改革意識を高める。(新規)
評	価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境係が中心となり、年 3 回の「安全点検ラウンド」や安全衛生委員会で「職場の作業環境安全点検」を実施した。各里の環境改善箇所や注意喚起を掲示・周知をし、快適な生活空間と安全な作業環境の整備を行った。

実 施 策		規律ある施設づくり
取組の方向性①		毎月の係長会議を中心に、職種・部署間の情報伝達等が統一した事項として周知徹底できるようにする。(変更)
	行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループリーダーは、各里へ情報共有する事項、目的とその内容を相互に再確認し、周知方法の統一を図り里間の伝達の差をなくし共通認識につなげる。(変更)
評	価	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループリーダーは会議等の後に、決定事項や周知事項等について里への伝達に差異がないよう相互に確認するとともに、伝達方法についても統一することで、共通認識につなげた。
取組の方向性②		職員が不適切ケアへの気づきの重要性を認識するため、セルフチェックを定期的に行い、自己覚知、互いの学びから意識を高める。
	行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全介護員が「利用者体験」を行い、その気づきや課題をテーマにグループワークを実施することで、不適切ケア防止への意識向上に努める。(新規)

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 場面を設定し、職員が利用者の生活を体験する利用者体験（声のかけ方、不快感を感じる場面の体験）を行った。職員側・利用者側を体感し、感じたことをグループワークで共有し振り返りをした。 ・ 利用者体験で再認識した意識すべきことや感じたことを「日めくりカレンダー」にし、目に留めることで意識づけや行動の定着につなげた。
取組の方向性③	人権・権利擁護に対する意識啓発を行い、互いに気づき、伝え合える関係を作る。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症ケアを正しく理解し、利用者理解やケアの本質について学びを深め、利用者本位の支援を通して人権・権利の視点を考えていく。（変更）
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ ユマニチュードの勉強会を実施し、理解した技術を利用者との関りの中で実践し、感想を里内で共有し理解を深めた。また、実践での学びを認知症専門ケアチームでも共有し、認知症ケアの充実につなげた。

エ 業務の生産性を高め、ワークライフバランスを推進する。

実 施 施 策	多様な働き方の検討と導入
取組の方向性①	勤務時間に条件のある求職者が働きやすいような柔軟な雇用形態や職員個々の生活スタイルに合わせた、介護助手等の勤務形態の検討・試行を行う。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 将来の人員や体制の確保に向けて、多様な人材や特定の業務に特化したスタッフの雇用の必要性、有効性について経営企画会議で協議する。（変更）
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見学者のほとんどが日勤帯での非常勤職員を希望しており、柔軟な働き方を検討し人的資源を有効に活用する必要はあるが、雇用についての協議や業務整理を具体化するまでには至らなかった。
取組の方向性②	外部委託している清掃業務について、費用の削減と働き方の選択肢を増やす観点から、必要性や業務の見直しを検討する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 清掃業務については見直しを行い、令和6年3月末で外部委託を終了し、園での用務員雇用に移行した。（終了）
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 用務員の雇用に移行後、業務整理に合わせお掃除ロボットを試行的に導入し生産性の向上、経費削減等について検討を進めた。

実 施 策	職員の心身の健康管理
取組の方向性①	環境要因の大きい里の全床に計画的に眠り SCAN を導入することで、業務オペレーションの変更、巡回回数の低減等により夜勤業務の負担軽減を図り、生産性の向上を図る。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 眠り SCAN の全床導入に向けて、神楽の里の実践効果をもとに他の里も業務整理を行った上で導入を開始し、職員の負担軽減を図る。(変更) ・ 既存の機器（スタンディングリフト）を有効活用し負担軽減につなげるとともに、ICT 活用推進チームを中心に、現在の支援に効果的な機器を選定して試行し、結果をふまえて導入を検討し、生産性の向上や負担軽減につなげる。(継続)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度眠り SCAN を全床導入した。夜間の巡視を眠り SCANViewer に置き換えたことで訪室回数が減り、利用者の安眠や職員の負担軽減が図れた。また、巡視を置き換えるにあたり、業務フローを見直し時間内に記録業務ができるようになった。
取組の方向性②	心身の健康を保てるようメンタルヘルス、ハラスメントに関する研修を開催し、ストレスコーピングを身につけ、セルフケアに生かす。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心身の健康を保つため、実践的研修（3B 体操等）を定期的で開催し、家庭でも出来る心身のリフレッシュ法を学びセルフケアに活かす。(継続)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活に取り入れやすいリフレッシュ方法をメインに、3B 体操を取り入れた研修を開催し活用できると好評だった。また、研修内では体と心の連動性についても学び、セルフケアの向上に努めた。
取組の方向性②	多目的休暇以外のアニバーサリー休暇の導入や、年休を活用した連続休暇を取得できるようにする。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 希望休以外にも、夜勤や週休と組み合わせた連続休暇の取得や夜勤前の勤務日数の調整により負担軽減を図ることで、日々のパフォーマンスを上げる。(継続)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夜勤明けや希望休に連続した休みを取ることや連続勤務日数を調整することで、負担感の緩和につなげた。 ・ 年休の平均取得日数は8日前後で昨年度より2日程度減少したものの、お互い様の意識によりリフレッシュ目的での連続休暇を取得する職員が増えている。

(2) 利用者の生活を支えるサービスの質の向上

ア 先進的で魅力あるサービスを提供し、サービスの質を高める。

実 施 策	個別ケアの充実
取組の方向性①	専門研修や先進施設へ職員を派遣し、個別ケアの理解を深める。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 眠り SCAN の全床導入にむけ、神楽の里の実践と先進施設視察の取組を参考に、個別ケアの充実に向けた具体的なプランを里ごとに策定しサービスの質の向上を図る。(新規)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 眠り SCAN を先行導入した神楽の里の取組を参考に、睡眠データ分析を行った。職員主体となりがちだった朝の起床支援が「利用者の覚醒状況に応じたアプローチ」へと移行できた。また、排泄支援の時間帯の見直しにより衣類交換回数が減るなど、利用者の不快感や職員の負担軽減につながった。 ・ 単日のデータだけでなく、週や月で遡った睡眠状況を分析することで、日中の過ごし方の見直しや就寝時間の調整による安眠につながった。
取組の方向性②	「意向・好み」「出来ること」を反映させ、統一した支援に活用できる最適なツールを検討し、従来型特養の体制の強みを活かした個別ケアの充実を図っていく。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体内リズムを整え健康生活を送るため「朝のケア」に重点を置き、利用者の「動き出し」「出来ること」を優先した支援を行う。また、ケース記録の項目に追加し、確実に記録に残すことでモニタリングに反映させ、担当者会議で「暮らしぶり」を共有する。(新規) ・ 生活動作との相乗効果を図り健康管理の一助とするため、作業療法士による機能訓練要素を取り入れたアクティビティを定期的に提供する。(新規) ・ 「食」については、魅せる調理（目の前調理など）や里調理への調理員の積極的な参画により、嗜好や現状を知ることで給食調理へ反映させる。視覚的にも美味しく楽しめる食事の提供を行うためムース食、ミキサー食については、盛り付けを工夫する。(新規)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「朝のケア」に重点を置き、顔を洗う・髪をとかすなど「出来ること」を大切に、「動き出し」を起床支援につなげた。また、暮らしぶりを記録に反映できるよう 1 日 1 記録に取り組みケアプランに活かした。 ・ 行事や季節に合わせ、ちぎり絵などの趣味活動を行い生活の潤いとなったが、生活動作に大きく反映させるほどの効果にはつながらなかった。

	<ul style="list-style-type: none"> 里ごとに担当調理員を決め、目の前で調理の実演や里調理に積極的に参加しご利用者の嗜好や摂取状況等を知る機会となり調理に反映させた。ムース食については、型抜き等の工夫を重ね視覚的な食支援につなげた。また、食材の色を活かせる調理手順について検討した。
取組の方向性③	口腔衛生・嚥下機能に関する取組、スキンケアなど専門職による実践をする。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 誤嚥性肺炎や摂食機能の低下による身体不調を予防し、生活の質の向上を図るため「口腔機能」をキーワードに、「話す（関り）」「食べる（摂食・嚥下・口腔ケア）」「アクティビティ」「視線を前へ向け覚醒レベルを上げる（離床）支援」をすすめる。（新規）
評価	<ul style="list-style-type: none"> 協力歯科医院の医師による研修を年2回行った。研修では、事前に職員の疑問や学びたいことをまとめて講義内容に盛り込んでもらい、理解を深めるとともにケアの充実を図った。 研修後、口腔ケア手順と使用物品のフローチャートを利用者ごとに作成し活用した。夕方に口腔体操を実施する機会が増えた。

実施施策	専門性を備えたサービスの提供と介護観共育
取組の方向性①	認知症に関する研修に経験年数の浅い職員を派遣し、専門性を高める。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 認知症介護基礎研修、実践者研修、実践リーダー研修に派遣し、専門性を高め、より質の高い認知症ケアにつなげる。（継続） 外部講師による認知症ケア研修を開催し、より多くの職員が正しく理解し学ぶ機会をもつ。（新規）
評価	<ul style="list-style-type: none"> 認知症介護実践者研修に1名を派遣し、専門性を高めるとともに里内で共有し利用者支援に反映した。 外部講師による認知症ケア研修会を開催し、認知症の理解と支援方法を学び、研修参加者が各里で復命することでチームでの実践につなげた。
取組の方向性②	認知症や看取り介護の実践に基づく園内研修を計画的に実施し、多職種でのチームアプローチの強化と職種間連携の向上を図る。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 専門ケアチームを中心に研修等を企画し、専門性を高めるとともに職種間で連携した支援、ケアスキルの底上げを行う。（継続）
評価	<ul style="list-style-type: none"> 専門ケアチームでの学びを認知症ケア、看取り支援に反映させた。研修ではグループワークを取り入れ、職員それぞれが考える機会を持つことで実践につなげた。認知症チームケア推進加算のワークシートを活用し、検討メンバーで具体的なケア計画を作成し日々のケ

	<p>アで実践した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 認知症、看取り、摂食嚥下の各専門ケアチームが、グループリーダーのフォローを受けながら園内研修を企画実施し、専門性を高めケアスキルの向上を図った。また、研修ではグループワークを取り入れ、考える機会をもった。 認知症チームケア推進加算のワークシートを活用し、検討メンバーを中心に具体的なケア計画を立案し実践につなげた。
取組の方向性③	<p>研修等の継続と、看取り前後のカンファレンスの持ち方などについて、具体的な方策を立て実践するとともに、語り継ぎやOJTにより看取り介護の実践力を高める。(変更)</p>
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 看護師及び作業療法士は、実際の看取り介護の場面を通し心身の変化を観る力や必要なケアについて、介護員にOJTを行い、実践を通して学びを深め介護観を育む。(新規) 作業療法士は、看取り期や体調不良者に対しリラクゼーションや緩和ケアを実践し「生活の質」を保つ。また、その手法について介護員が実践できるよう共育する。(新規)
評価	<ul style="list-style-type: none"> 日々のミーティングなどで、看取り期の体位変換やクッションの当て方、離床時の注意点などを多職種で話し合い実践した。実践した経過を偲びのカンファレンスで振り返ることで、看護師・作業療法士の視点と介護員の視点を再共有し、以降の実践につなげた。

イ 安全安心で快適な暮らしを保障し、利用者の満足度を高める。

実施施策	<p>リスク管理体制の充実</p>
取組の方向性①	<p>ヒヤリハットの集積により、より多くの気づきを発信し共有することで事故を防ぐ。</p>
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 部署ごとに前月に報告した事故やヒヤリハットから、対応策や日々の支援が適切か否か振り返り、事故対策部会で報告し改善につなげる。(変更) 事故対策部会では、3 か月ごとに発生した事故・ヒヤリハットを時間や場所等を項目別に見える化し、分析することでリスク回避につなげる。(新規)
評価	<ul style="list-style-type: none"> 事故対策部会では、3 か月前に発生した事故・ヒヤリハットを時間や場所等に整理して分析し振り返る機会をもった。部会での結果は係長から各里へ周知し注意喚起した。 事故防止研修では、グループワークで事故発生時から対策、共有までの流れを行えるよう、実際に園で起こった事故報告を利用して演

		習を行った。実践的な内容としたことで、事故防止の迅速な周知・徹底につながった。
取組の方向性②		「安全点検ラウンド」「職場の作業環境安全点検」を定着させ、リスクへの意識啓発をすることで事故を回避する。
行動計画		<ul style="list-style-type: none"> 各里で5S活動をすすめるとともに、「安全点検ラウンド」に合わせて、作業環境と共用空間の設えについて「美観コンテスト」を行い、「安全で衛生的な働く環境」を整える意識を高める。(変更)
評価		<ul style="list-style-type: none"> 各里の共有スペースと作業環境を中心に、年4回安全点検ラウンドを行い各里の改善箇所や危険箇所の注意喚起を掲示・周知し安全な作業環境の整備を行った。 各里で環境整備の日を設け、里内の衛生的な環境の維持に努め、環境美化への意識を高めた。また、各里ステーションの整理整頓、面会時に心地よく過ごせるパブリックスペースの設えを整えることができたが、美観コンテストまでは行わなかった。

実施施策		我が家と思える居場所づくり
取組の方向性①		各里のケア体制に合わせた食堂やパブリックスペースの設えを検討し、改善を図る。
行動計画		<ul style="list-style-type: none"> 居室やパブリックスペースは、利用者が安心・安全に過ごせ、職員の働きやすさとの相乗効果につながるよう設えを工夫する。(継続) 大規模修繕計画に基づき整備された居室洗面台を、「朝」に重点を置いたケアに活用し、ケアの効率化と利用者支援の充実を図る。(新規)
評価		<ul style="list-style-type: none"> 「朝のケア」を確実に実施できることを目標に、居室洗面台周囲の物品を整え、職員、利用者双方の使いやすさとケアの充実につながった。
取組の方向性②		家族も一緒に、居心地の良い居室環境を設え、我が家と思える居場所をつくる。
行動計画		<ul style="list-style-type: none"> 居室や居室前の庭スペースについては、面会や担当者会議を通して家族と一緒に設え等を考え、心地よい居場所をつくる。(継続) 家族連絡会に合わせ環境整備を行い、家族もケアの一員として参画する機会を持つ。(新規)
評価		<ul style="list-style-type: none"> 入所時や面会時、カンファレンス時にご家族と一緒に考える機会をもち、居室外庭に花壇を作ったケースもあった。 家族を交えての環境整備は開催できなかったが、衣替えや居室の設え、面会時の簡単な居室内清掃に協力いただけるようになってきた。また、家族連絡会でご家族へ協力依頼をし、多くの建設的な意見を

	いただいた。
取組の方向性③	湿度・臭気対策や、利活用できる洗面台への交換など、感染症対策を含めた健康的な居住環境の整備に向け、本部との協議を継続し具体的な計画を立てる。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 大規模修繕計画に基づき整備された箇所を実用的かつ効果的に活用し、利用者支援の充実を図る。(再掲)(新規) 居室空間のプライバシーや感染対策に対応する多床室の間仕切りについては、本部と定期的に協議の場を持ち修繕計画を具体化し、居住環境の整備をすすめる。(新規)
評価	<ul style="list-style-type: none"> 整備された環境を「朝のケア」と結びつけ、支援の充実と介護員の利便性を図った。 多床室の間仕切りについては、本部と協議を重ねたが、タンスの移動や間口の確保等の面から見送ることとした。

ウ 施設機能を積極的に開放し、地域とのつながりを強化する。

実施施策	地域における公益的な取組の強化
取組の方向性①	うしおサロンの再開に向け、今後のあり方について検討する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> うしおサロンの在り方について検討し方向性を決定する。また、今後の公益的な取組（地域交流スペースを活用した文化的活動の開催や地域への開放等）について検討する。(継続)
評価	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍以降、長年中止していた事業であり、うしおサロンの登録者は高齢化等のため半数以下に減少している。地域でも介護予防サービスや自治会ごとの予防体操など、多く開催されており、再開時の利用者やボランティアの確保が難しい状況が伺え、廃止に向けた準備をしている状況である。 地域交流スペースの活用は、海潮地区交流センター等に働きかけている。地域住民の作品展示やサークルの発表の場（地域交流の集い）として利用場面を拡大しつつある。
取組の方向性②	雲南市社会福祉法人連絡会における活動を継続するとともに、「くらしの安全を支える身近でなんでも相談窓口」については、情報発信の方法を工夫する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 「くらしの安全を支える身近でなんでも相談窓口」については、相談しやすい窓口、支援につなげ安心して暮らせる窓口としての機能が発揮できるよう「ひのかみ通信」等での情報発信を積極的に行う。(変更)

評 価	<ul style="list-style-type: none"> 箴の上園だよりで窓口についての情報を掲載し、ホームページでは取組内容を紹介した。利用者の親族からの相談が1件あり対応した。
-----	---

実 施 策	地域の福祉ニーズへの対応
取組の方向性①	ボランティア活動や地域交流を活性化させ、情報交換等行うことでニーズを探り、地域の一員としての役割が果たせるよう内容を検討し実施する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 海潮地区住民へのアンケートを実施する。また、海潮地区交流センター活動への参画を検討し、施設機能を活用できる機会を探り実施する。(継続)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> 海潮地区交流センターや地区の民生委員との情報交換を行ったが、住民アンケートの実施までには至らなかった。定期的な作品展等から拡げていき、実績や口コミ等での利用促進をすすめる。

(3) 安定的で持続的な経営基盤の確立

ア 収入の安定確保と経費増大の抑制で、安定性の高い財務体質を維持する。

実 施 策	利用率の維持向上
取組の方向性①	入所待機者の状況を定期的に精査し、確実な入所待機者リストを整備する。また、定期的に相談・専門員室内で状況分析し、具体化した対策を講じる。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、相談・専門員室で利用率や入所候補者確保等に関する分析会議を行い、具体的対応策をあげ実施するとともに経営企画会議で共有する。(継続) 入所申込の時点で、見学や聞取調査、園の強みや優位性の説明を行い、相談しやすい関係性を築き信頼性を高める。また、事前調査については相談・専門員室で分担し計画的に進め、入所候補者を確保することによりスムーズな入所につなげる。(新規)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> 入所申込者に入所申込継続の意思確認の調査を行い、状況を確認した。 申込時に、可能な限り見学してもらうことで施設の様子や雰囲気を感じていただき、早期から関係性の構築を図るとともに、入所に際してのミスマッチを防ぐよう取り組んだ。
取組の方向性②	新規の短期利用者の獲得と PR 活動を進めるとともに、居室マネジメントの見直しを行い利用率の向上を図る。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 年4回「箴の上園通信」を発行し、定期的に圏域及び雲南市近郊の居宅介護支援事業所を訪問し信頼性を高め、新規利用者の獲得につ

	<p>なげる。(継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ベッドマネジメントについては、入院による空床利用やトライアル利用等を積極的にすすめ、利用率の維持に努める。(新規)
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年4回「簸の上園通信」を発行し居宅支援事業所と病院へ配布説明した。奥出雲圏域、松江市内の事業所からの新規相談、依頼につながった。 ・ 入院による空床利用のベッドマネジメントや新規契約者の獲得により、高い利用率が維持できた。 ・ 協力医療機関である雲南市立病院との連携がさらに充実し、早期退院に向け連携調整が円滑にできるようになってきた。その結果、年間の入院日数の減少につながり利用率の大きな低下を防ぐことができた。 ・ 雲南市立病院と雲南市内6つの特養との「医療と介護の連携推進のための意見交換会」が年3回開催され、行政や雲南保健所の出席もあり、圏域の医療・介護の連携強化が図られており、早期退院や救急外来受診時の待機時間の短縮等につながっている。
取組の方向性③	<p>医療的ケアの必要な方の入所や短期利用について柔軟に受け入れていく。</p>
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療的ケアの必要な利用者については、受入れを前提に医務と相談・専門員室で検討会議を開催し、受入体制を整え利用につなげる。また、園の強みとなるよう、介護員のケアスキルの底上げを行う。(変更)
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「医療ニーズの高い利用者の受入に関するガイドライン」に沿って、入所や短期の受入態勢を整え利用につなげた。受入れに際しては、看護師中心にケアのポイントを伝達しながら介護員のケアスキルの底上げを図った。

実施施策	<p>コスト意識の啓発と実践</p>
取組の方向性①	<p>現在使用している物品の使用状況やコスト比較等の精査を行い、適切な物品選定につなげる。</p>
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援環境を整え5S活動を推進する。また、総務課と生活支援課で使用量の多い品目や日用品を洗い出し、コスト比較することで適切な物品の選定を行い支出の削減を図る。(継続) ・ 紙オムツについては、適切なサイズの選定から見直し、使用数や発注数等から現状分析を行い経費削減につなげる。また、不必要な使用につながらないようケア技術を高める。(継続)

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 係長会議などで、経費削減について議題に挙げ、総務課と生活支援課で情報共有した。特に手袋などの日用品は置き場所などを決め必要以上に倉庫から持ち出さないよう周知し、整理整頓につながったが、コスト削減や管理の定着には至らなかった。 ・ 紙おむつについては、尿測を行い使用するパッドの種類などを見直した。今年度、眠り SCAN の導入により夜勤帯の業務変更や排泄支援時間の見直しなどが重なり、紙おむつ・パッドの使用量の削減までは確認できなかったが、必要なものは使い、不要なものは削減する意識づけができた。
-----	---

イ 中長期的な視点をもって、持続性の高い経営を行う。

実 施 策	施設の維持管理
取組の方向性①	大規模修繕計画については、令和3年度以降の本部との協議をもとに具体化し、利用者への影響度等もふまえ、優先度を見極め計画的に進めていく。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和6年度に見送った大規模修繕計画(全熱交換機設置・壁紙更新)、令和7年度に予定されていた大規模修繕計画(屋根外壁塗装・屋根防水シート更新・樋更新・金属屋根塗装塗替)、また、居室空間のプライバシーや感染対策に対応する多床室の準個室化については、本部と定期的に協議の場を持ち、次年度の実施に向け具体化する。(新規)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 屋根外壁等の修繕と準個室化については一体化して施工予定であったが、多床室の準個室化を検討した結果、見送ることとしたため、令和9年度実施へ変更となった。
取組の方向性②	施設内外の自主点検を定期的に行い、劣化不備のある箇所については、計画的に修繕が出来るよう、年度の事業計画、予算措置を講じていく。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 除草等の園庭整備については、園全体で環境整備の日を設け実施する。また、家族参加日を設定し協力を得る。(継続)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境係を中心にミニ清掃の日を設定し、庭の除草などを行った。また職員で園周りの溝掃除や、除草剤を散布し周辺を整備した。 ・ 家族を交えての環境整備は開催できなかったが、面会時に簡単な居室内清掃に協力いただけるようになってきた。また、家族連絡会で協力依頼をしたところ、多くの建設的な意見をいただいたことから、次年度実施していく。
実 施 策	BCP(業務継続計画) BCM(業務継続マネジメント)の構築と周知

<p>取組の方向性①</p>	<p>感染対策に関するマニュアル等の見直しを行い、感染予防策を再構築するとともに、衛生教育を継続する。</p>
<p>行動計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各部署に環境衛生係をおき、啓発活動や日々の環境衛生、体調管理も含めた衛生教育の強化を図り、感染予防の意識を高め発症時の蔓延を防ぐ。(変更)
<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> 環境衛生係が、1ケア1手洗い・手指消毒・換気などの標準予防策の啓発活動等をすすめ、平時からの感染予防の意識を高めた。感染症の流行期には初発での感染拡大防止を図ることができた。
<p>取組の方向性②</p>	<p>BCP計画の周知と、PDCAサイクルによる見直しを行い、より実効性の高い計画にする。</p>
<p>行動計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> BCPに基づく研修、シミュレーション訓練を行い、BCPの見直しを行う。
<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> BCPに基づいて計画的に座学などの研修、シミュレーション訓練を行った。感染予防に関する座学研修、PPE着脱訓練を行い有事に備えた。
<p>取組の方向性③</p>	<p>非常食の提供、断水時、停電時など、職員が共通理解のもと行動できるよう、テーマ別に防災訓練を実施するとともに、指揮系統の確認をする。</p>
<p>行動計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> 災害時用の備品については、災害時を想定した使い方で試行し有効性を確認したうえで、必要備品の必要数備蓄を計画的にすすめる。また、職員間で保管場所や使用方法を共有し実行性を高める。(変更)
<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> 災害時の使用備品については、職員間で保管場所を共有し実際の停電時など使用しやすくなった。また、令和8年1月の地震を契機に備蓄品の見直しを行い、冬季の保温対策、夏季の熱中症対策に係る備品等の整備を行った。

ウ 組織内の連携を強化し、強固な組織体制と経営基盤を確立する。

<p>実施施策</p>	<p>外部環境との連携を強化し信頼性の向上を図る。(変更)</p>
<p>取組の方向性①</p>	<p>「雲南地域特別養護老人ホームサービス自己評価」のPDCAサイクルを構築し、サービスの質の向上につなげる。</p>
<p>行動計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「雲南地域特別養護老人ホームサービス自己評価」の実施にあたっては、評価基準の着眼点の具体例集を作成し事前に説明を行うことで、実施対象者や実施項目の拡大を図り、評価の信憑性を高める。(変更)
<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「雲南地域特別養護老人ホームサービス自己評価」について全職員に拡大して実施した。サービス向上委員会を中心に結果分析を行い、

		課題を洗い出し改善に取り組んだ。評価基準の着眼点の具体例集は作成できなかったが、事前に視点について説明した。
取組の方向性②		利用者・家族・ボランティアアンケートを継続実施し、得られた結果の分析により、抽出した課題を改善する。
行動計画		<ul style="list-style-type: none"> 各種アンケートを実施し、その意見を速やかに共有し改善につなげる。(継続) 家族連絡会では、施設での生活や看取り等に関する勉強会等を企画し、家族と共に考える機会を持つ。(継続)
評価		<ul style="list-style-type: none"> 各アンケートを実施し、その結果と対応策を家族連絡会で報告した。ご家族から指摘いただいた点については会議、ミーティングで対応策を共有し、日頃から意識すべき点を確認した。 家族連絡会では、ICT の導入状況やリスク管理等について伝え、園の実践内容を共有し理解を得た。

実施施策	施設内連携強化	
取組の方向性①	係長会議やチーフ会を中心に現場レベルでの情報発信や連携強化がさらにできるようすすめる。	
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 正規職員は、計画的に1週間程度の里間交流勤務を行い、気づきの視点を養うとともに業務改善や里間の連携強化につなげる。(新規) 広い視野で業務を展開できるよう、毎週月曜日の朝会に生活支援課の係長級職員からも1名が参加し、園の動向や懸案事項を共有する。(変更) 	
評価	<ul style="list-style-type: none"> 6名の正規職員が1週間程度、普段勤務する里以外で勤務を経験した。勤務の中で気づいたこと・自里で活かしたいことをまとめ、自里での実践につなげた。 朝会にはグループリーダー・主任作業療法士が交代で参加し、園の動向やスケジュールなどを情報共有したことで連携を深めることができた。 	

4 数値目標

事業名	目標	実績	評価
介護老人福祉施設	98.0%	97.7%	年間 27 名の退所があり、入所までの空床は 7.3 日（前年度 8.8 日）であった。事前に入所調査済の方から入所決定し、スムーズな入所につなげることができた。 入院日数は 411 日（前年度 511 日）で、協力医療機関との連携をすすめたことにより、治療後すみやかに退院していただくことができた。
短期入所生活介護	96.0%	96.8%	入院や退所後の空床利用やベッドマネジメントを行うことで、急なキャンセルがあっても高い利用率を維持することができた。また、積極的な広報活動を行い新規の契約につなげることができた。